

平成28年3月23日

上越市長 村山秀幸様

中郷区地域協議会長 岡田豊

勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金廃止に関する意見書

平成27年10月1日付けで、勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金に関する意見書を提出し、11月13日付けで回答をいただきました。協議会で検討協議の結果、再度意見書を提出致します。

記

1 中郷区民は、平成2年に勝馬投票券場外発売所の話が持ち上がって、平成5年の開設に至るまで、この問題を真剣に考え、今日まで「オープス中郷」の経緯や交付金の活用を見続けて来ました。

先にいただいた回答では、市民の公営ギャンブルに対する認識変化を言われていますが、数値化されたものでは無く、中郷区においては大きく認識が変化したとは捉えられません。マイナス面だけで論ずるつもりはありませんが、交付金の使途や額だけでプラスであったとは言えません。交付金を有効活用することは、苦渋の決断をした住民の当然の権利と義務と考えます。また、交付金が減少し、基金を維持する財源確保が難しくなるとありますが、基金は額の多寡に関係無く基金であり、維持に財源が必要とは理解できません。施設へのアクセス確保等の経費とは別に考えるべきです。当該施設を一企業と考えると、約40名の雇用と大きな売り上げがあり固定資産税も納入されることを見れば、市にとっても大切な企業と言えます。その企業に対して市の負担が発生することは当然のことと考えます。

市は、中郷村当時から一般会計剰余金と交付金を積立て活かす基金条例の背景や活用の在り方を理解し尊重すべきです。回答中に基金の有無にかかわらず、必要性のある事業を確実に実施していくとありますが、これは当然のことです。こ

れと基金条例の趣旨に則った基金の運用とは、論点の趣旨が違うと考えます。基金の運用と存続に市として支障があるならば、具体的に述べていただき、それをどの様に改善していくか、市と中郷区民が考えるべきです。

2 2月21日に実施した中郷区民との意見交換においても多くの意見をいただきました。意見は、①合併後も特定財源は継続されると聞いていた②オープス中郷とオラレ上越は成り立ちが違う③上越市28年度予算は1,100億円にも膨らんでいる状況で中郷の財源に手をつけるのはおかしい④中郷区民も税を納めているので、公共物の補修は市の責務⑤市は用途を具体的にしめすべき⑥合併時に10年後の財政を見誤ったのではないかと、こうなるのであれば合併時に言ってほしかった。ほとんどは、特定財源として中郷区のために使うべきとのご意見でした。また、一般財源化となれば何のための合併だったのかとのご意見も寄せられています。

3 以上の事から、現時点で本基金を一般財源化することは、住民の理解を得るのは困難な状況にあります。少子高齢化で人口が減少する中で、中郷が大切にしていた青少年のスポーツ振興や、住民をまとめる諸事業の助成まで削減が計画されています。この特定財源は、住民自治基本条例にある協働を進め、地域の特性を生かしたまちづくりを行うために欠くことが出来ません。

市は、住民一人一人に十分な説明を行い、民意を問う必要があります。また、本件は中郷区地域協議会にとって重要な判断案件です。市の熟慮と民意を生かした対応を求めます。

以 上